

[報告]

献血協力団体への献血情報提供による効率的な献血受入れの試み

東京都赤十字血液センター

森高晋平，青木亜希子，古井美史，小泉雅由，小泉善男，中島一格

Practical use of blood donation data derived from blood center network system: for the affective donor acceptance

Tokyo Metropolitan Red Cross Blood Center

Shinpei Moritaka, Akiko Aoki, Yoshihito Furui,
Masayoshi Koizumi, Yoshio Koizumi and Kazunori Nakajima

抄 錄

年々増大している血液需要に応えるため、合理的かつ効率的な献血者確保対策が必要となっている。しかし、献血者の増加に比例して、混雑による待ち時間が多く発生するようになり、献血団体から献血所要時間の短縮を求められるようになった。献血者増加と待ち時間の短縮という相反する要素を両立させるために、前回献血情報を統一システムから抽出して、各時間帯の献血者来場状況などをグラフ化して分析し、その情報を献血団体にも提示して、渉外活動に反映させた。本報告では、その結果として、同規模・同時期の献血実施にもかかわらず、受付数を大幅に伸ばすことができた献血会場を例示した。現在、東京都赤十字血液センターでは、上記抽出方法により得られたデータを活用した渉外活動を行っている。

Key words: blood donation information, blood service network system

【はじめに】

高齢化社会を迎え、増大する血液需要に応えるために、需要に見合った献血者確保対策を継続して講じる必要がある。しかし、一方では経済不況など、企業を取り巻く社会環境を要因とした影響もあり、献血協力団体からは献血の待ち時間短縮など、円滑な献血者受け入れの対応が求められている。そこで事前折衝時に、前回献血時の情報を提示することにより、献血者が集中する時間帯を

分散するなど、効率的な受け入れを図ることを試みたので報告する。

【目的】

移動献血において、円滑な献血者受け入れを行うため、前回情報をもとに献血協力団体固有の資料を作成し、事前折衝および実施計画に利用する。

【方 法】

まず、献血者確保の現状を知るために、時間帯別来場数の前回情報を用いようとしたが、来場者数は統一システムから時間帯別では抽出できず、総数でしか抽出ができなかった。そのため、代用データとして採血開始時間を抽出し用いることにした。抽出方法としては統一システムの「汎用検索」機能を用い、分類情報として採血情報(S0)、情報名称としてV_R_検査項目検査状態を選択し、さらに、取得項目指定として採血開始時刻など必要な項目を選択する(表1)。採血開始時間のグラフ化にあたっては、抽出情報をエクセルに変換し、グラフ化した。その後、さらに渉外担当者より献血実績数、献血受付数(初回・新規・再来)、その日の天候、性別・献血種別・型別実績数、採血・不採血状況の抽出依頼があり、同様に必要な分類情報、情報名称、取得項目指定を設定し、情報を得た(表1)。献血実施前に、上記データを提示し、混雑回避に向け、献血団体と共に受付時間帯の再検討を行った。以下は、二個班体制(医師2名、採血8名、事務6名)の職域献血の実施例である。前回、平成21年2月の時間帯別採血者数を図1に示すが、受付時間帯は9時30分～11時45分、13時00分～16時00分で、昼休み中は受付・採血を中断していた。1日の受付数は102人で、破線で示すように受付開始から10時までの30分間は来場者が2人と少なく、10時台と14時台に大き

な来場者のピークがあった。このグラフを元に採血課、団体担当者らと協議し、今回は①受付開始時間を10時と30分遅らせると同時に、②受付終了も16時30分と30分遅らせた。また、③昼休みを交替で取ることとして常時1個班は稼働することとした。

【結 果】

上記の試みの結果、図1実線のように、平成22年2月は前回実施していなかった昼休み中も継続して受け入れを行ったことで、11～12時には21人、12～13時に12人採血することができた。また、4時から30分間、受付延長したことでも19人採血することができ、結果として同規模・同時期の献血にもかかわらず総数155名と53人の受付者増となつた(表2)。なお、その後、同年7月にも同じ職域献血を実施した。その結果を図2・表3に示すが、改善された献血の受入れと採血実施体制を維持することができた。

【考 察】

渉外活動においては、献血実績を分析・評価し、今後の献血推進に反映させることが重要である¹⁾。そのためには、過去の献血データを収集するだけでなく、問題点の「可視化」を図り、献血推進課、採血課、医務課などとも協力し、献血協力団体担当者に情報を提供して、共に前回の問題解

表1 統一システムからの情報抽出

項目	分類情報	情報名称	取得項目指定
時間帯別来場者数	採血情報(S0)	V_R_検査項目検査状態	<u>採血開始時刻</u> 採血年月日、採血番号、採血センター_C、 採血施設_C(最大)、採取採血種類_C
献血者数	統計情報(S0)	V_採血情報	<u>採血人数(合計)</u> 献血受付採血年月日、採血種類_C、献血場所_C
受付者数 (初回・新規・再来)	統計情報(S0)	V_採血情報	<u>受付人数(合計)</u> 、初回再来_C 献血受付採血年月日、採血施設_C、献血場所_C
天候・日付	献血稼働情報(S0)	V_R_献血班員実績	<u>天候_C(最大)</u> 、献血年月日 献血施設_C、献血センター_C
採血種別・型別実績	統計情報(S0)	V_採血情報	<u>採血種類_C、ABO型_C、性別_C</u> 献血受付採血年月日、献血場所_C、採血人数(合計)
性別ごとの採血・ 不採血者数	統計情報(S0)	V_採血情報	<u>不適格理由_C、性別_C</u> 献血受付採血年月日、献血場所_C、データ件数(件数)

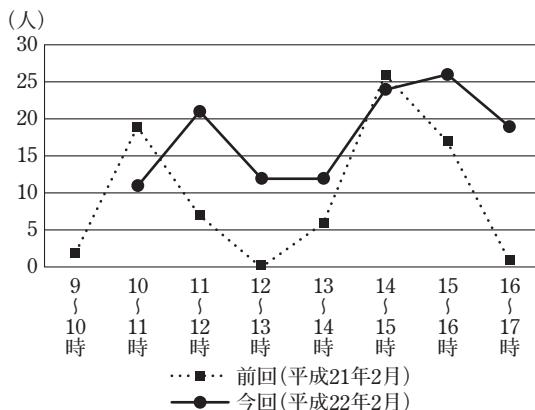


図1 時間帯別採血者数

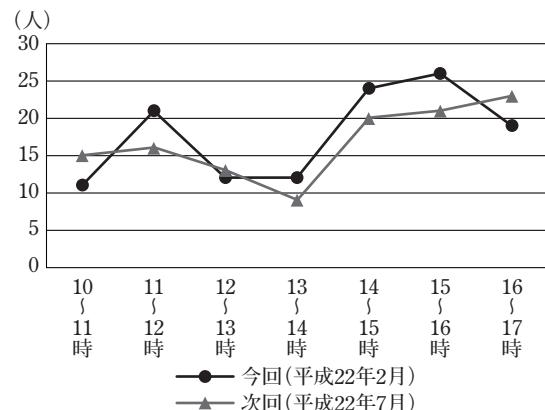


図2 時間帯別採血者数

表2 献血実績表

(日付、天候、受付者数、献血者数など)

日付	平成21年2月10日	平成22年2月10日
天候	晴	曇
受付者数	102	155
初回	14	28
新規	8	4
再来	80	123
採血者数	78	125

表3 献血実績表

(日付、天候、受付者数、献血者数など)

日付	平成22年2月10日	平成22年7月26日
天候	曇	曇
受付者数	155	154
初回	28	33
新規	4	12
再来	123	109
採血者数	125	121

決に当たる必要がある。今回の試みから、データを基に前回の献血実施状況を分析・検証し、情報を共有することは、より効率的な採血の実施のみならず、献血団体や献血者の負担を軽減するためにも有効と考える。

また、上江洲らのいうように、渉外活動では一つの献血者増加対策だけでは実績を上げるのに十分でないことがある²⁾。統一システムには豊富な

検索機能があり、本発表はその検索機能を使った一例にすぎない。今後は、効率的な採血に向け、各献血会場のドナー層の分析やリピート率の検証など、さらなる有効活用も考えられ、統一システムの情報から献血協力団体の事情に応じた情報を随時利用できることは今後の渉外活動にも有用になると思われる。

文 献

- 1) 野中慎也ほか：移動献血車の稼働効率向上に向けた試み。血液事業, 31: 218, 2008.

- 2) 上江洲宏ほか：移動採血における献血者増加対策について。血液事業, 29: 318, 2006.